



2025年3月31日

各 位

会 社 名     ダイジェット工業株式会社  
代表者名     代表取締役社長 生悦住 歩  
(コード番号 6138 東証スタンダード市場)  
問合せ先     取締役総務部長兼経理部長 安藤 信夫  
T E L         06-6791-6781

### 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、東京証券取引所の「市場区分の見直しに関するフォローアップ会議」の経過や2023年3月31日付の要請を踏まえ、資本コスト、資本収益性、市場評価などについて分析や検討を重ねてまいりましたが、2025年3月31日開催の取締役会において、持続的成長と企業価値向上を図るため、資本政策などの基本方針について改めて確認し、下記のとおり決議しましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 現状分析

項目	単位	2022.3期	2023.3期	2024.3期
売上高	百万円	8,067	8,803	8,344
営業利益	百万円	10	288	112
経常利益	百万円	19	312	174
親会社株主に帰属する 当期純利益	百万円	64	362	△130
売上高営業利益率	%	0.1	3.3	1.3
ROE	%	0.9	4.9	△1.7
ROIC	%	0.1	1.5	0.6
WACC	%	3.3	3.0	3.1
PBR	倍	0.46	0.34	0.33
連結自己資本比率	%	44.6	45.8	47.4
配当性向	%	31.5	31.7	

当社は資本コストの指標としてWACC（加重平均資本コスト）を採用し、それに対する利益指標としてROIC（投下資本利益率）を採用しております。これらの指標を採用する理由としては、当社の資金調達には銀行からの借入れが多くあり、その影響を考慮すると、負債コストと株主資本コストの影響を合わせた指標であるWACC及び調達した投下資本に対する利益指標であるROICを用いることが適切であると考えているためであります。

当社の資本コスト（WACC）は約3%と推定しておりますが、ROICがそれを下回る状況が続いております。

コロナ禍前の業績についても、ROICは資本コストを超えておらず、資本コストを超える十分な収益をあげられていないことから、当社の収益性に課題があると分析しております。



また、株価については、2018年ごろから低下し、過去数年の間では低迷した状況が続いています。当社の状況としては、2020年3月期からコロナ禍等による業績の悪化が進み、2021年3月期では赤字を計上しました。

2022年3月期からは収益の状況も回復しつつあるものの、コロナ禍前の水準までは戻らず、収益も不安定な状況が続いていることが、株価の回復に至っていない大きな要因であると分析しています。

## 2. 方針・目標

当社が従前から掲げている、中長期的に売上高営業利益率10%以上とする目標は継続し、これに加えて、当社の資本コストを加味し、ROIC 5%以上を達成することを新たに目指してまいります。

## 3. 施策

上記の目標を達成するため、以下の施策を実施してまいります。

企業価値向上に向けた対応の進捗や見直しについては、引き続き取締役会での検討状況を踏まえ順次開示していく予定です。

### ①収益力の強化

当社は、持続的な成長を実現し、企業価値の向上を図るため、販売体制、生産技術力の強化に向けた施策を推進し、収益力の強化を図ってまいります。また、持続的な成長には、設備投資・研究開発の促進のほか、人的資本への投資も重要であり、獲得した収益を効率的かつ戦略的に再投資することで、資本収益性を高め、さらなる企業価値の向上を目指してまいります。

### ②株主還元策の強化

株主還元につきましては、配当性向25%を目標としつつ、安定的・持続的な配当を目指してまいりました。今後は、資本収益性を改善し、配当性向35%を新たな目標とし、より高い水準での株主還元を目指してまいります。

### ③政策保有株式縮減の継続検討

政策保有株式については、定期的に取り締役会で保有の意義を確認しており、2018年の保有銘柄数26銘柄から、現在17銘柄と縮減を図っております。今後も投資先との協議も含め、縮減について検討を進めてまいります。

### ④IR活動の強化

当社への理解や信頼を高めていただくため、株主さま、投資家さまへのIR活動を強化してまいります。

以 上